



## 小学校を訪問させていただいて

4月22日から5月20日の約1か月間で小学校を訪問させていただきました。お忙しい中、コミュニティ・スクールへの構想・取組状況等のお話を聞かせていただきありがとうございました。校長先生のお話を聞かせていただく中で、感じたこと、考えたことを次の通りまとめさせていただきました。

### ◎コミュニティ・スクールって何？

“なぜ今コミュニティ・スクールなのか”を考えた時、コミュニティ・スクールは「SDGs 未来安心都市・明石の創造～次なる100年のまちづくり～」をすすめる本市にとって、社会の変化・これからの時代を見据え、これからの時代で求められる資質・能力等を育み、持続可能な社会を創っていく子どもたちを育てることが、教育からのアプローチとしてコミュニティ・スクールが位置付けられると考えます。コミュニティ・スクールのねらいは、地域を支え、社会を創っていく子どもたちを育てることを通して、われわれ大人も共に成長しながら、持続可能な社会を創っていくということであると考えます。100年先を見据え、学校・地域・保護者の三者が当事者となって、“これからの時代に対応できる子どもを育てる社会の仕組みづくり”がコミュニティ・スクールとして始まります。その中で、子どもたちにこれからの時代に求められる資質・能力を育む学びの仕組みを主となって“創っていく”のが学校の役割となってきます。“100年先を見据えた”という意識を持つことが大事になるのではと思っています。

### ◎熟議から

学校・地域・保護者の三者が連携・協働して、“これからの時代に対応できる子どもを育てる社会の仕組みづくり”をすすめるにあたり、ゴールに向けての道筋を“見える化”する必要があります。その手段として“熟議”があります。その熟議をとおして、“これからの時代に対応できる子どもを育てる社会の仕組みづくり”をすすめる当事者として同じゴールを目指し、人と人がつながっていけばと願っています。

また、学校運営協議会と学校評議員会との違いがはっきりわからないというご意見もいただきました。ごもっともなご意見であり、わかりにくいところだと思います。学校園の取り組みの報告に対して、意見を求めるのであれば学校評議員会とは変わりません。これからの社会を支え、創っていく子どもたちを育てるための道筋等の熟議がなされ、学校・地域・保護者が同じゴールを目指すチームが学校運営協議会だと考えます。チームとして戦略をねり、作戦をたてるのが熟議であるというあたりの理解を深めていただけたらと思います

## “人が集まり、人がつながる仕組みづくり”



松が丘小コミュニティ・スクールでは昨年に引き続き、今年も「大人も楽しむ学習広場」の「折り紙教室」が5月21日に、「書道教室」が5月22日にスタートしました。講師先生の都合で今年の開催が危ぶまれたのですが、地域の方のお力により、

新しい講師先生も見つかり無事にスタートを切ることができました。

参加者の中には、90歳の方もおられ、月1回の教室ですが、教室を楽しみにしていただけると

ころにこうした活動の価値と可能性があるように感じます。

人が集まり、人をつないでいく仕組みとして学校を訪問させていただく中で、“こんなアイデアも”という面白い取り組みに出会うことがあります。「コミコミスクスクNo.2」で紹介させていただいた魚住まちづくり協議会の取り組みはアイデアいっぱい、実行力いっぱいです。「喫茶くすのき」、「きずなサロン」、「映画観賞会」、「みんなdeごはん」、「里山ジュニアクラブ」、「親子自然体験in金ケ崎」、「みんなdeお勉強」など、人が集まり、人をつないでいく仕組みとして地域に根付いた取り組みになっています。



二見北小を訪問した時には、「笑一輪（えーわ）カフェ」「歌声カフェ」「ちょっとだけ英会話カフェ」「囲碁・将棋カフェ」「健康麻雀カフェ」と書かれた色とりどりの、のぼりが目に入ってきました。二見北まちづくり協議会でもカフェをとおして“人が集まり、人をつないでいく仕組みづくり”に知恵を絞っておられるのだなと感じました。そして他の校区でも“人が集まり、人をつないでいく仕組みづくり”すすめられていると思います。私自身、コミュニティ・スクールにかかわるまではこうした“人が集まり、人をつないでいく仕組みづくり”には目が向いていなかったところがありましたが、こうした仕組みづくりがまちづくり・学校づくりの基礎になると考えるようになりました。学校を訪問させていく中でこうしたまち協さんの取り組みに出会えることも楽しみにしながら、アンテナも高くしていきたくと思っています。でもどのネーミングも個性的でアイデアいっぱいですね。



### 錦城中校区合同学校運営協議会、二見北小学校運営協議会が開かれました



5月28日（火）には錦城中校区合同学校運営協議会が、31日（金）には二見北小学校運営協議会が開かれました。錦城中校区合同学校運営協議会では幼小中がそれぞれの学校園の状況や取り組みを報告し、委員の皆さんからご意見をいただきました。二見北小学校運営協議会では現在の学校の様子を説明し、今年度の学校経営方針を承認していただいたあと、校長室からコミュニティルームに場所を移し、これからのコミュニティ・スクールのあり方をさぐるために、昨年度のコミュニティ・スクールの取り組みの中での課題、コミュニティ・スクールの取り組みをすすめる上でのアイデア等を付箋に書きながら熟議を行いました。時間も限られたなかでしたが、二見北が目指そうとするコミュニティ・スクールの方向性は見えてきたのではと思いました。

### 江井島小で教員向けのコミュニティ・スクールの研修会が開かれました

5月29日（水）に江井島小学校での教員向けの研修会で「コミュニティ・スクールって何？今、なぜコミュニティ・スクールなの？」というテーマでお話をさせていただきました。生徒指導の研究指定をうけ、新たな研究のスタートを切られる先生方にとって「コミュニティ・スクールっていったい何？また、やっかいなものが始まるの？生徒指導と関係あるの？」といった思いを持たれていたのではと思います。モデル校松が丘の取り組みを紹介しながら、「社会性の育成」「社会に受け入れられる自己実現」をめざす生徒指導は100年先を見据えた学びの仕組みづくりを創るコミュニティ・スクールにつながるのではと投げかけさせていただきました。5月30日のNHKスペシャル「“不登校”44万人の衝撃」、6月2日のYTV「そこまで言って委員会」をご覧になられた方も多いと思いますが、今の学校の仕組みと社会の仕組みのズレが取り上げられていましたが、コミュニティ・スクールづくりをとおして生徒指導研究というのも時代の流れなのかもしれないですね。

